

## 全国都市再生モデル調査概要様式

1．応募団体名	宮崎県日南市 担当：都市建設課 前田 祐二 連絡先：電話番号 0987-31-1139 電子メール kensetu@city.nichinan.miyazaki.jp
2．調査名	油津地区・ 歴史的資産を活用したみちづくり・まちづくり調査
3．推薦団体名	
4．調査の対象地域	
(1) 対象となる行政 区域名、地区名等	日南市（宮崎県） 油津地区
(2) 対象となる行政 区域及び地区の特徴	日南市人口 約4万人 対象地区：油津地区
5．提案した活動の内容	
(1) テーマ、課題	<p>油津地区・堀川運河(江戸期開削)は、昭和50年代から地元住民が主体となり運河の歴史的環境を保存再生する運動が続けられているが、まちづくりの魅力拠点となる登録文化財としての「堀川運河」全体の保存修復や「赤レンガ館」の保存活用方法の検討、「身近なまちづくり支援街路事業」を通じた地区交通計画及び散策ルート周辺の町並み景観形成手法の検討、「歴史的港湾環境創造事業」による運河再生と水質改善等、歴史的地区のまちづくりを展開し、さらにまちづくりへの市民参加の支援により、地域活性化を図っていくことが求められている。</p> <p>そのため、本地区におけるまちづくり事業においては、計画策定段階より深く市民が関わることにより、官民一体となった総合的なまちづくりを行うものであり、街路事業と港湾事業及び文化財事業の連携による事業推進が求められ、また「まちづくり市民協議会」を主体としたまちづくり活動は、新たな市民参加形態のモデルとなることが期待されている。</p> <p>本モデル調査においては、歴史を活かしたまちづくり事業を推進するために、行政および住民の各々の役割分担に基づいてまちづくりに取り組んでいくための今後の検討課題等を一元的に整理し、まちづくり事業の実現化計画を支えることを目的とするものである。</p>

(2) 本調査費による  
活動内容の概要  
(提案者の活動)

本調査費により行われた活動内容の概要

1. 油津赤レンガ館及び旧河野主屋等利活用検討委員会  
計2回開催(平成16年1月~)  
参加者 平均約30人  
委員: 市民 11名・学識経験者等 1名
  
2. 日南市油津地区都市デザイン会議  
計3回開催(平成15年4月~)  
委員: 市民 3名・学識経験者等 4名
  
3. 市民意見交換会(平成16年2月3日)  
参加者 平均約50人  
市民参加者 37名 等



赤レンガ館及び旧河野家等利活用検討委員会風景



油津地区都市デザイン会議風景



市民意見交換会風景



	<p>本調査以外の財源を投じたり、あるいは経費をかけずに、本調査の一環として行った活動内容の概要。</p> <p>堀川運河竣工式イベント（宮崎県・日南市主催）の場で事業目的等をアピール。（平成15年11月8日）</p> <p>2. まちづくりに関する合意形成に向けた「歴みち事業 街路設計調査」を併行して実施（平成15年12月～） 等</p>
--	---

<p>6. 本調査と関連する活動実績(提案者とは別主体の活動)</p>	<p>1. 日南市・日向市共催による都市景観シンポジウムの開催。（平成15年11月14日）</p> <p>2. 宮崎県による飼肥杉活用のための木材ワーキング設置（平成16年2月?）</p>
<p>7. 本調査の成果等、本調査の実施過程で顕在化した課題など</p>	<p>本調査の実施過程で、公共施設整備事業の情報公開や意見集約、合意形成のための地域住民との意見交換による公民協働のまちづくり手法の有効性が示された。</p> <p>しかし一方で、新たに制定される景観法に基づく都市景観条例の制定に早急に取り組む予定であるが、条例制定までに暫定的に歴史的環境を保全するための地区内の建物高さや用途規制等の手立てを講じる必要があるという課題があることも分かり、今後の展開においては早急に行政として果たすべき景観形成のための役割と地区住民が主体となった景観づくりや水環境保全のための役割等を明確化していくことが重要である。また市民主導による歴史的建造物の利活用方策についても運営組織の設立にあたっての支援策を講じていくことが求められており、まちづくりの各プロセスで柔軟な支援できる関連事業制度等の対応が求められていると考えられる。</p> <p>本調査成果を踏まえ、市民と一体となった歴史的地区のまちづくり、及び地区景観形成の取り組みに向けて今後とも検討を重ねていく予定である。</p>